

学長予定者の選考経過

1. 国立大学法人琉球大学学長選考・監察会議（以下、「選考・監察会議」という。）は、令和6年10月31日、大屋祐輔氏、喜納育江氏、松下正之氏の3人の学長候補者から所信を聴取し、質疑を実施した。
2. 選考・監察会議は、同年11月18日、3人の学長候補者からの所信の聴取及び質疑を踏まえ、また、学内意向調査の結果も参考にして、「国立大学法人琉球大学学長の選考等に関する規則」第3条に基づき、審議し投票した結果、喜納育江氏を国立大学法人琉球大学次期学長予定者に決定した。

○決定の理由

喜納育江氏は、国立大学法人を取り巻く厳しい状況において、時代の趨勢を見極めながら、大学のあり方やミッションを不断に見直し、時には大胆な改革に挑む必要があると示している。そして、現在進行中の第4期中期目標・中期計画における取組を着実に進めながら、令和10年度からスタートする第5期中期目標・中期計画に向け、就任と同時に8つの重点施策に着手すること、さらに、令和16年度までを視野に入れた新たなビジョン計画を策定することを明示している。

同氏は、これらの方針とともに、琉球大学の魅力とポテンシャルを倍加させることで「次代に選ばれ、地域に愛され、国内外から期待される大学」となるよう、（1）グローバル人材の育成を促す教育の質保証、（2）研究の質向上と普及、（3）互いを尊重する組織づくり、（4）社会との連携の推進、（5）経営体としての大学の機能強化の5つの考えのもとに大学運営を推進すると表明している。

選考・監察会議は、上記の理念が、琉球大学の基本理念・目標に合致し、同氏が「国立大学法人琉球大学に求められる学長像」に照らして、これを実現するための強い意志を持ち、今後6年間の琉球大学を牽引できる人物であると判断し、同氏を次期学長予定者に決定した。

(参考)

意向調査の実施と結果

・実施期間 令和6年11月12日（火）～11月15日（金）

・実施結果

大屋 祐輔氏 142人

喜納 育江氏 305人

松下 正之氏 286人

参加資格者数：839人

参加者数：740人（うちどの候補者も選ばないとした者7人）

令和6年11月18日

国立大学法人琉球大学学長選考・監察会議

